

平成25年度「GKP広報大賞」エントリーシート

エントリーする団体名の名称 広島市下水道局	担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】 下水道局施設部計画調整課 広森 源太 電話 082-504-2414 Fax : 082-504-2429 E-mail : hiromori-g@city.hiroshima.lg.jp
代表者氏名 下水道局長 片平 靖	(他薦の場合) 上記団体を推薦する団体の名称 担当者氏名、所属、連絡先【電話、Fax、E-Mail】

部門名 テレビ報道部門	事例名 頻発するゲリラ豪雨からの脱却
----------------	-----------------------

広島市の中心市街地は、地盤が低く、近年の都市化の進展により雨水が浸透する空き地が減少したことに伴い、雨水が一気に下水道管に流れ込むようになり、また、局所的な豪雨に下水道の排水能力が対応できていないため、各地区で浸水被害が発生しています。

現在、中心市街地では、雨水ポンプ場や雨水幹線、雨水貯留管の整備に取り組んでいます。

こうした状況の中、平成24年度は広島市中心部において、局所的な豪雨により、7月に2回、8月に1回、11月に1回、床上・床下浸水や道路冠水などが発生しました。

浸水被害が短期間に頻発したことから、平成24年8月27日にはローカルテレビのニュースにおいて、特に浸水被害が多い地区の整備が、平成25年度の梅雨時期までに終える予定であることを市民に発信しています。

浸水被害に係るニュースでよく取り沙汰されるのは、浸水対策の整備が遅れていることを強調するなど行政側の対応を批判する内容となります。しかしながら、今回のニュースでは、浸水対策の整備を終えても、計画能力を大幅に上回るような降雨があった場合、浸水被害の発生が予測されるため、各家庭や地域一体となった自助による取組みを行っていただけよう働きかけています。



【平成24年8月27日放送 広島ホームテレビ「Jステーション」】

※映像の使用許可について、広島ホームテレビに承諾いただいています。

エントリー事例の特徴（下水道インフラの価値を高める上で優れていると思われる点など）

- ・具体的な浸水対策施設（雨水ポンプ場、雨水幹線）の紹介
- ・ローカルテレビを通じて、広島市下水道局職員による浸水対策の取組みを説明
- ・自助による対策の有効性を啓発